

福祉のまちづくりの実現のために  
大久保小学校四年 鈴木 結衣

私の学校では先日福祉の体験学習がありました。そこでさまざまな体験をし、その中でも興味を持ったのがバリアフリーについてです。町の中でどのような工夫がされているのか知りたくなりました。

まず、私がよく目にするのがスロープです。車いすの介助に役立ちます。スロープは歩きやすいしベビーカーや自転車を押すときでも

持ち上げなくていいのでとても便利だと思います。次はメロディ信号機です。視覚障がい

者に信号が青であることを知らせるための装置です。私も信号が青になつたことに気づかないときがあるのですごくわかりやすくしてよ

いと思いましたが。その他に点字ブロックといふものもあります。正式名称は障がい者誘導用ブロックです。視覚障がい者が足のうらの

感覚や白杖の感覚で道を認識することができるとは驚きです。これを聞いて私は点字ブロック

の上に座<sup>っ</sup>たり自転車を置いたりしないようにしようと思いました。

ここであげたものはほんの一部で、調べるとまだまだあります。共通して言えることは体の不自由な人のためのものがそうでない人にと<sup>っ</sup>ても生活しやすいものであるということとです。ふだん気にしていなか<sup>っ</sup>たけれど今回調べたことを通して町の中にいろいろな工夫があることがわかりました。体の不自由な人、お年より、小さな子どもたち、そしてそ

こでくらす全ての人が安心・安全に生活できるまちを作ればさらに笑顔があふれると思います。そのためには、一人一人がお互いの立場に立<sup>っ</sup>て相手を思いやることが大切なのではないでし<sup>ょ</sup>うか。

私はその実現に近づくために困<sup>っ</sup>ている人の声を積極的に聞い<sup>て</sup>いきたいと思っています。その小さなところかけが<sup>、</sup>よりよい福祉のま

ちづくりにつながるはずで